

令和4年3月

令和3年度 委員会活動達成状況点検・評価報告書

千葉県立保健医療大学

自己点検・評価委員会 自己点検・評価実施推進部会

共通教育運営会議 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標 初年次教育の充実を語る カリキュラム改正にむけて、現状科目の状況を把握・評価し（非常勤講師担当科目の「教育の質」を検証）、一般教養科目・保健医療基礎科目の新カリキュラムを作成する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画 ・専任教員後任人事の担当科目選定に伴い、学生の履修状況を確認し、科目構成を見直す。 ・非常勤講師が担当する一般教養科目・保健医療基礎科目について、運営会議構成員が2～3科目ずつ分担して各科目 Teams の所有者として加わり、状況を把握し、質の確保を検討する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>達成事項 令和3年度も、昨年度に引き続き、ほとんどの一般教養科目・保健医療基礎科目はオンデマンド形式での開講となった。</p> <p>① 後任人事担当科目選定を通し、外国語科目と自然科学系科目（生物学）について、本学一般教養科目の目的・内容について共通教育運営会議で討議し、以下の見解をまとめ、大学にはかった。「国際的な視野をもって活動できる人材の育成は、大学の理念であり、外国語科目の充実が望まれる。しかし、保健医療基礎科目・専門科目の理解に生物学の知識が必須であるが、<u>高等学校での生物学の学習・理解が不十分であり、専門基礎科目の履修が困難な学生がいること</u>、生物学は履修者数も多く、将来的に臨床業務を理解するうえで重要性も高く、常勤教員がいることが望ましいので、後任教員の担当科目は生物学が望ましいと結論づけられた。」</p> <p>② 共通科目を担当する非常勤講師における、「教育の質」を保証する仕組みの1手法として、会議員が科目 Teams に所有者として参加し（非常勤講師には、事前にアナウンス）、状況を確認し、会議にて報告した。概ね、問題点の指摘はなかった。Teams 操作が不慣れな非常勤講師に対しては、共通教育教務委員が補佐した。令和4年度は、対面授業時間割の調整などの理由から、3科目（法学（憲法）・公衆衛生学・保健医療福祉論）の担当講師が変更される。</p> <p>③ 放送大学単位互換科目を選定した。令和3年度は、2名の学生が3科目（問題解決の進め方、社会統計学入門、韓国語Ⅰ）の単位を習得した。引き続き、多様な、広い学びを促す。</p> <p>評価結果の理由と改善策 一般教養科目 38 科目 76 コマ、保健医療基礎科目 29 科目 29 コマを、38 人の非常勤講師と 13 人の専任教員により、オンデマンド形式で滞りなく実施できた。参考までに、学生より提出された令和2年度授業評価において、「この科目を受けて満足したか（5点満点）」の平均値は、一般教養科目で前期 4.39 点 後期 4.42 点、保健医療基礎科目で前期 4.48 点、後期 4.27 点であった。令和3年度の授業評価を入手次第、科目の見直しを継続する必要がある。</p> <p>申し送り事項 年間の定例議事を書面にて明確にすると、共通教育運営会議の構成員が所掌業務を具体的に把握しやすいか。</p> <p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由) コロナ禍で対面授業が実施できず苦労が多くあった中で、一般教養科目・保健医療基礎科目において Teams による遠隔授業が滞りなく実施することができており、学生の授業評価もおおむね高い評価が得られているため、目標に達している。</p>

委員長： 島田 美恵子
総括委員長： 大川由一 面接日：2022年2月15日
自己点検・評価実施推進部会：北川良子

特色科目運営会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者・利用者中心のケアを促進できる人材育成をめざし、地域資源の活用によるサービスラーニング（体験ゼミナールや「ほい大健康プログラム」）を拡充する。
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 単なる知識伝達の科目構成ではなく、自分自身の課題として感じ取れる素養を磨く。 「体験ゼミナール」では自分の変化に気づくこと、「千葉県健康づくり」では日常生活の背後に用意された施策の意図に気づくこと、「専門職間の連携活動論」では専門職としての自分の位置に気づくこと、それぞれを行動目標として、振り返りの中の達成度と達成の確信度を指標とする。
3	<p>目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> 「体験ゼミナール」「千葉県健康づくり」「専門職間の連携活動論」とも対面での経験が積めない状況であったが、作業部会との連携を図り、情報共有の Teams を活用して、円滑な授業運営を支援できた。対面・遠隔それぞれのメリットを活かした体制を維持できた。 「社会実習」については、枠組みは決定したものの、学習者・受け入れ側双方の安全を担保する方策決定に至らず、実施を見送らざるを得なかった。ただしすぐに実施できる体制は維持できている。（新しい大プログラムについては凍結状態になっている） 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> 「千葉県健康づくり」「専門職間の連携活動論」については、効果的な授業配置・修正を連携しながら行い、学習目標が達成できたと思われる。しかし、「体験ゼミナール」だけは、入学直後の素の状態、地域に赴きその場で起きていることを体験するという趣旨が活かせず、対面の緊張感も画面越しの疑似体験にとどまり、根本的な「体験」にはなっていない。過去の実践で学習者が感じた「地域から求められている」感覚は共有できたか疑問である。特色科目独自の継続性・繋がりが危ぶまれる状況であると感じている。 コロナ禍であるための制約の下で、できる限りの実践は展開するが、4年間の年度目標達成は非常に困難である。 無理かもしれないが、年度目標の修正が必要になる。導入を前提とした R4 の「サービスラーニング活動拡大」R5 「20%以上単位取得」は、コロナ対応期間分の先送りが必要である。 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> 来年度は原則対面実施となっているが、訪問学習実現のためには、学生のワクチン接種の確認・および訪問団体側の受け入れ条件の確認（ワクチン接種要件）など遠隔になる可能性もある。 「体験ゼミナール」の学生評価・アンケートも実態が異なっているため経年比較は難しい。 「社会実習」「新しい大プログラム」の開講については、1年次対面を経験していない上級生への再教育を含めた対応（感染対策・心構え再教育など）が必要になる。
5	<p>自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
	<p>(理由)</p> <p>コロナ禍の制約の下、対面での授業、特に訪問における学習を行うことが困難である中、Teams を活用し円滑に授業を実施したことは評価される。次年度は完全な訪問学習が実現できる方策の検討が望まれる。</p>

委員長：井上裕光
総括委員長：大川 由一 面接日：2022年2月9日
自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

入試改革検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

<p>1 目標</p> <p>①志願者確保の評価：学科専攻別に、昨年度の志願者の動向・課題を分析し、APに基づく学生確保のための志願者確保対策を検討する。</p> <p>②入試方法の評価：入学後の学生評価等を通して、入試方法の適切性について検討する。さらに、昨年度実施した「調査書等を活用した新たな面接試験方法」の妥当性・適切性について評価する。</p> <p>③編入学制度の検討：編入学に関する社会的動向を注視し、志願状況、入学後の編入生の学修状況・国家試験合格状況・進路等から志願者確保について検討する。</p> <p>④関連委員会と連携した志願者確保対策の推進：①②③の結果を入試実施委員会及び広報委員会と共有し、APに即した学生の確保に向けた課題を明らかにし、連携して取り組む。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月：昨年度の志願者の動向を分析（目標①）し、教授会報告する（目標④） ・7月～9月：昨年度実施した「調査書等を活用した新たな面接試験方法」を評価する（目標②） ・9月～1月：推薦枠拡大の結果評価の指標について検討する（目標②） ・2月～3月：編入学制度（目標③）、推薦枠拡大の結果評価の指標（目標②）について検討する
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 ① 過去5年間の志願者数・志願倍率の推移について、入試区分別・学科専攻別に分析し、例年の傾向に加え、養成校の増加やコロナの影響など、学科専攻による影響要因を明確にした。 ② 推薦枠拡大の影響を分析した結果、県内就職者数の増加、志願者数の減少、入試方法による学生間の差の拡大など学科専攻により影響が異なっていた。 昨年度導入した「志願理由書」「面接評価表」について評価した結果、面接時の質問が容易になり、使用上の問題がなかったことから、引き続き次年度も同様の方法で実施することとした。 ③ 全国的に編入学制度が縮小傾向で、志願者数は増加したが、合格基準に達する受験生が得られなかった。この結果について看護学科で検討中で、委員会での検討は2～3月を予定している。 ④ 志願状況の分析結果を資料にまとめ教授会報告し、学校説明会等の広報活動での活用を促した。小論文得点の分析方法を検討し、入試実施委員会に過去3年間のデータと共に資料提供した。 ⑤ 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の利用及び従来の利用科目からの変更について検討を重ね、「情報Ⅰ」の利用は学科専攻ごとに決定するという方向性を明らかにした。 ・ 評価結果の理由と改善策 委員会で討論を重ね、学科専攻による推薦枠拡大の影響の相違を具体的にしたこと、小論文得点を分析し入試委員会に提供したデータがFDに有効活用されたことは評価できる。推薦枠拡大結果についての評価視点を引き続き検討し、入試方法を評価する。 ・ 申し送り事項 令和7年度大学入学共通テストにおける利用科目を次年度6月に公表できるよう決定する。編入学制度改革についても同時に公表できるように検討する。 推薦枠拡大の結果を評価する視点について検討する。 「調査書等を活用した新たな面接試験方法」についての評価を継続する。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）目標達成に向けた活動が着実に行われている。志願者確保に向けた戦略検討の上で、志願状況の検討は重要であると考えますので、今後とも分析、評価の実施をお願いします。</p>
<p>委員長：浅井美千代</p>
<p>総括委員長：大川 由一</p>
<p>面接日：2022年2月9日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介</p>

入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標</p> <p>①本学のアドミッションポリシーに沿った学生を選抜するための一連の入試業務を公平・公正に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試実施業務：特別選抜・編入学試験・一般選抜・大学入学共通テストそれぞれが確実に、かつ効率的に実施されるよう、各段階における作業手順を見直し、実施要領を更新する。また特別選抜試験と編入学試験を同日開催する方向で検討し、実施する。 入試問題の作成：作問者への問題作成依頼、作成された入試問題の校正を実施し、適切な入試問題・解答用紙・採点基準・採点表の案を作成する。また、入試問題の作問に関するFDを企画・実施する。 <p>②遠隔面接試験やインターネット出願の導入について検討する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>4月：特別選抜・編入学試験同日実施の実現可能性について検討。大学運営会議での決定。 5月末：今年度入試問題作成担当者の選出・依頼 6月：入試問題の作成に関するFDの実施 5～6月：特別選抜・編入学試験 募集要項・実施要領の検討・作成 7～10月：特別選抜試験・編入学試験問題の校正・完成・印刷 9月：特別選抜・編入学試験 募集要項の完成・配布 10月：実施要領の完成・配布 11月：特別選抜試験・編入学試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート ：一般選抜試験 募集要項の完成・配布 監督者・面接者等の人選 11～2月：一般選抜試験問題の校正・完成・印刷 1月：一般選抜試験実施要領の完成・配布 2月：一般選抜試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①入試実施業務 (特別選抜・編入学試験、一般選抜試験) <p>特別選抜・編入学試験の同日開催については、大学運営会議での審議を経て、同日開催の実施が決定した。詳細な実施スケジュールを検討し、実施要領を修正した。事前の監督者説明会を実施し、無事に終了することができた。</p> <p>採点業務の効率化をはかるため、採点結果の自動計算ができるエクセルシートを作成し、特別選抜・編入学の採点より採用し、採点業務の効率化を図ることができた。また、看護学科の採点業務は2班に分けても業務負担が大きいことから、一般選抜では入力補助者をつけ業務負担の軽減に努めた。</p> <p>大学入学共通テスト追試験を、今年度初めて、東都大学との共催で実施した。事務局間の事前打ち合わせを綿密に行い、当日は大きな問題はなく終了することができた。事前の設備点検で大講義室の照明の不具合が見つかり、受験生の座席を工夫することで対応した。</p> ②入試問題の作成 <p>入試問題作成について、特別選抜 (学校型推薦、社会人特別選抜、編入学試験)、一般選抜で、それぞれ正・副の2問の作成を依頼した。今年度より、社会人特別選抜と編入学試験 (小論文) を同一問題とすることが大学運営会議で決定され、作問担当教員は計12名となった。この変更により、作問や採点に関わる人員が少なくなり、また校正に係る業務も減少し、効率化がはかれた。作成された入試問題の点検については、入試実施委員長・副委員長・委員長指名の入試実施委員の3名で校正を担当した。今年度は校正意見返却を、オンラインで作問者と校正者6人全員が参加できるように変更して行ったことにより、率直な意見交換を行うことができ、滞りなく入試問題を作成することができた。</p> <p>6月に全教員を対象とした入試問題作成に関するFDを開催した。実施後のアンケートでは、内容についてわかりやすかったとの評価が多く、概ね好評であった。</p>

<p>③遠隔面接試験およびインターネット出願について インターネット出願については、予算確保の目途がついた時点で検討を開始する。遠隔面接試験については検討を行ったが、受験生の通信環境の確保が困難であり、また COVID-19 への対応が確立されてきたことから実施には至らなかった。</p> <p>・ 評価結果の理由と改善策</p> <p>①評価結果の理由 特別選抜・編入学試験、大学入学共通テスト追試験、一般選抜試験、いずれも事前に実施要領を作成して配布し、確実かつ公正な入試を実施することができた。入試問題に関しても校正会議を複数回実施し、適切な問題作成をすることができたと評価する。期首で目標としていた特別選抜・編入学の同日実施に際しても大きな混乱を招くことなく実施できたこと、採点業務の効率化を図ったことなどが成果であり、ほぼ目標通りの成果と評価した。</p> <p>②改善策 各種入試後のアンケート結果から、改善点が複数指摘されている（例えば、体調不良者試験室とトイレが遠い、入試前の担当者への説明不足、受験生が迷わない掲示方法の工夫、等）。これらの改善に努める必要がある。また、入試の採点業務については、業務量の負担が大きく、学科・専攻により差がある。これについても検討が必要である。</p> <p>・ 申し送り事項 入試実施に当たっての事前準備や当日の受験生対応などのマニュアル整備 入試問題作成者へのフィードバック（入試結果やアンケート結果）とその蓄積 入試問題校正にあたってのチェックリスト（マニュアル）の整備 インターネット出願導入に向けた対応（予算要求と令和5年度導入に向けた検討）</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 （理由）計画通りに遂行されている。引き続き、改善策に挙げている学科・専攻の業務負担の軽減について検討することが望まれる。</p>
<p style="text-align: right;">委員長：河部房子</p>
<p style="text-align: right;">総括委員長：大川由一 面接日：2022年2月15日</p>
<p style="text-align: right;">自己点検・評価実施推進部会：酒井克也</p>

教務委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. f-GPA を活用し、学生の自主的な管理方法を検討 2. 自己主導型学習アクティブラーニングの推進（FD セミナーの開催） 3. 教学マネジメントの推進体制の構築：卒業生アンケートの評価指標における3つのポリシーの達成状況の評価と検討 4. ICT教育の実践と検証（R2年度の経験からの課題抽出） 5. 授業評価アンケートの実施方法および質問項目の検討 6. 現行カリキュラムの評価と次のカリキュラム改正の検討
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に学習に取り組むための客観的評価：GPAの分布や平均値の公表について検討 2. 自己主導型学習アクティブラーニングを推進すべく、FD セミナー開催等の検討 3. 卒業時学生調査について、評価項目の確認と精査検討 4. 教育の質保証の観点から、授業形態別（対面・遠隔）の実情に着目した「授業および学習環境を含めた学生・教員アンケート」の作成と実施 5. コロナ禍におけるFormsを活用したアンケート実施と質問項目の精査検討 6. カリキュラム改正の是非について、各学科の意見のとりまとめと検討
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身に適した学習方法を身につけ、主体的に学ぶことを目的に、GPAの分布や平均値の公表について検討した。学生・教職員ともにGPAについて共通認識を持っていない現状から、GPAの概念も含めたFD開催を今後実施する（R4年度予定）。 2. コロナ禍2年目の遠隔授業において、教員間での授業内容の格差が生じていることへの対応が急務であったこと、学生が主体的に学修する遠隔授業の促進は、アクティブラーニングの推進にもつながることから、今年度のFDは目標4.にも関連するFDの実施とした（R4.2月実施予定）。 3. 委員長は、公立大学協会によるWSに2回参加した。卒業時学生調査の評価項目の一部改定（IR部会）がなされ、今年度実施による3つのポリシーの達成状況を評価・検討予定。 4. 遠隔授業では、動画媒体が繰り返し見直せることから、復習や理解度向上に役立つというメリットが挙げられた一方、配信資料のボリュームや通信状況に関する課題も明らかとなった。結果を教員に共有し、ICT教育改善を促進するFDを計画（R4.2月実施予定）。 5. 質問項目を精査検討し、経年変化を見る観点から現状維持とした。コロナ禍のためFormsにより実施し、メールや科目Teamsによるリマインドで回答率向上に努めたが、回収率が芳しくなかった。次年度は対面授業時の紙面での配布、回収など実施方法を再検討する。 6. 全学科とも、現時点でカリキュラム改正が急務な状況ではないことから、次年度の新々カリ卒業生が出た時点での卒業時調査等において評価検討をする。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>遠隔試験において、公平公正な実施と評価をするべく、今年度新たに受験心得の作成と試験監督要領を改訂した。現在もCovid-19感染急拡大の混乱の中にあるが、ニューノーマルにおける新たな学びの方策を確立、今年度達成に至らなかった事項について継続検討したい。</p> ・ 申し送り事項 <p>With/after コロナの状況で、Society 5.0に向けた人材育成も見据え、双方向型のゼミやPBL型教育などの拡充検討とそのFD開催、目標の再検討。</p>

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

遠隔授業に関する調査や結果の共有、遠隔試験の試験監督要領の改定が進められている。次年度以降は with/after コロナの状況でのアクティブラーニングの推進や、授業や期末試験等において公正公平な教育を担保するための運営管理が期待される。

委員長：谷内洋子

総括委員長：大川由一

面接日：2022年2月9日

自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

FD・SD委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021年度)

1	<p>目標 FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するシステムの構築</p>
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献 : FD・SDを企画・実施(レベル1程度)の促進 2. 教育 : ・新任教員向けの講習会(レベル1~2程度)・教員向きの講習会(レベル3程度)を企画・実施の促進 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上(レベル2)・研究倫理の理解の講習会(レベル3)の企画・実施 4. 管理・運営 : ハラスメント予防のための講習会(レベル1)・危機管理の講習会(レベル3)・相談員向けの講習会(レベル3)の企画・実施 5. 各実施したFD・SD報告書とFD・SDアンケートの書式統一と提出の方法について検討実施
3	<p>目標達成度(自己評価) <input type="checkbox"/>5大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1非常に不満な結果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 2020年度作成のFD・SDマップに則して、2021年度の工程表(コースアウトライン)を作成し、概要検討・内容決定、各委員会に依頼開始・実施できた。 1. 社会貢献 : 基礎的知識と基本的スキルを備える(レベル1)「県立大学の理念に基づく社会貢献の理解」12月22日遠隔動画配信(58名参加6名動画視聴/教員全員)社会貢献委員会実施 2. 教育 : 新任教員向けの講習会(レベル2)「ICTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り①Office365を活用した授業デザイン-with コロナ:学内教員による講演②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方と探索-コロナ収束後を見据えて」令和4年2月28日/遠隔動画配信(予定)(未定/教員全員)教務委員会実施 教員向けの講習会(レベル3)「カリキュラム開発・教育アセスメントの実際について」侯木志朗先生、京都大学高等教育研究開発推進センター教員ほか(令和4年9月頃予定)/ (予定) 教務委員会実施 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上(レベル1)「久留米大学児島将康先生 研究計画書の書き方、科研費申請書作成のポイント」遠隔動画配信(48人/教員全員)学術推進実施委員会実施 研究遂行スキルの向上(レベル2)「東京大学康永秀生教授 臨床研究デザインに関する講演」令和3年9月24日遠隔動画配信(28人/教員全員)学術推進実施委員会実施 研究倫理の理解について(レベル3)「研究倫理に関するFD」令和4年3月4日予定/遠隔動画配信(予定)(未定/教員全員)倫理委員会実施 4. 管理・運営 : ハラスメント予防について(レベル1)「学生と教職員にキャンパス・ハラスメント防止に関する研修会」(キャンパス・ハラスメント相談員マニュアル改訂)令和4年2月下旬実施/遠隔動画配信予定(未定/教職員全員)キャンパス・ハラスメント委員会実施 対人関係の考え方スキルについて(レベル1)「デートDV お互いを尊重した関係とは」令和3年9月13日~9月26日/遠隔動画配信視(視聴回数41回/学生及び教職員全員)学生委員会実施 入試問題作成について(レベル1)「入試問題作成について」令和3年6月18日実施/遠隔動画配信(視聴回数26回/学生及び全教職員対象)入試改革検討委員会実施

<p>危機管理についての研修（レベル3）「不審者対応研修」令和4年2月21日実施 予定（未定/教職員全員）危機管理委員会実施</p> <p>相談員向けの講習会の企画・実施（レベル3）「キャンパス・ハラスメント防止 対策委員会学外委員による相談員向けオンライン研修会の開催」2022年度（令 和4年）に開催予定（未定/教職員全員）キャンパス・ハラスメント防止対策委 員会</p> <p>5. 各実施したFD・SD報告書とFD・SDアンケートの書式統一と提出の方法について検討実施 FD・SDアンケートの書式は検討したが、アンケートを含めFD・SD報告書などの 提出方法など未検討である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の理由と改善策 「FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するというシステ ムの構築」は、ほぼ目標通り達成された。 教職員の受講促進のための工夫については、コロナ禍のため、遠隔動画配信などの活用をせ ざるを得ない状況であったが、遠隔が受講促進の功を奏した一面もある。 改善点として、FDSDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一し実施し周知する 必要がある。 ・ 申し送り事項 2021年度作成のFD・SDマップに則して、2022年度FD・SDマップの再検討と2022年度FD・ SD年度計画（コースアウトライン）の検討。 FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>当初の目標通りFD・SDを開催することができた。一方でFD・SDアンケートや報告書に ついて提出方法を統一することについて検討が必要である。</p> <p style="text-align: right;">委員長：岡村 太郎</p> <p style="text-align: right;">総括委員長：大川 由一 面接日：2022年2月14日</p> <p style="text-align: right;">自己点検・評価実施推進部会：北川良子</p>

学術推進企画委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の学術推進、研究活動の活性化を行う。 2. 「学内共同研究」の募集を行い、公平・公正な審査を円滑に実施する。 3. 外部資金、特に科研費の獲得を推進する。 4. 紀要の編集・発行業務を円滑に行う。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>本学の学術推進、研究活動の活性化を行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学術・研究に関するイブニングセミナーの企画、実施、報告。 2. 「<u>学内共同研究</u>」の募集を行い、公平・公正な審査を円滑に実施する <ul style="list-style-type: none"> ・「学内共同研究」の募集と審査の実施。・学内共同研究費の使い勝手向上に関する検討。・研究成果の外部公表の検討。県の施策と関連する研究成果について将来構想委員会との連携による研究成果報告事業の検討。 3. <u>外部資金、特に科研費の獲得を推進する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度分の外部資金および学内共同研究について数値目標：申請率 80%、科研費採択率 30%を設定。・「科研費 FD 講演会」の企画・実施。・学内教員による採択された科研費研究計画調書の学内公開の整備。 4. <u>紀要の編集・発行業務を円滑に行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の円滑な編集・発行と査読者情報の登録、修正。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足の結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>本学の学術推進、研究活動の活性化を行う</u> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度(2021 年度)はイブニングセミナー(本委員会主催の FD)を 2 回開催した。第 1 回は科研費獲得促進を、第 2 回は臨床研究デザインをテーマとしたものとした(いずれも外部講師による)。FD/SD 委員会、全学教授会において開催報告を行った。 2. 「<u>学内共同研究</u>」の募集を行い、公平・公正な審査を円滑に実施する <ul style="list-style-type: none"> ・来年度(2022 年度)の学内共同研究の募集を行い一般研究 11 件、萌芽研究 3 件、若手研究 0 件の応募があった。応募数は例年と同水準であった。採択審査にあたって従来の紙の審査用紙を電子ファイル(エクセル)のものに切り替え審査業務の効率化を図った。学内共同研究発表会を開催した(以上、学内共同研究審査部会)。学内共同研究費の使い勝手向上に関する検討と、将来構想委員会との連携による県の施策と関連する研究成果の報告事業については今年度は実現しなかった。 3. <u>外部資金、特に科研費の獲得を推進する</u> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費などの外部資金および学内共同研究の申請数(率)は、来年度(2022 年度)分は申請有資格者 60 名のうち申請数 37 名(61.6%)であり、今年度(2021 年度)分の同 58 名中 41 名(71%)よりも低下しかつ数値目標の 80%を下回った。科研費採択率は、今年度(2021 年度)研究開始分は申請数 30 名のうち採択数 8 名(26%)であり、2020 年度分の同 30 名中 9 名(30%)よりも低下しかつ数値目標の 30%を下回った(ただし申請率については今年度終了予定の科研費課題の延長状況により今後増加する可能性がある)。前述のように本委員会が担当するイブニングセミナーのうち 1 回を科研費獲得促進をテーマとして開催した。前年度に引き続き学内教員による採択された科研費研究計画調書 4 年分について 14 名から承諾がえられ学内に公開したところ 5 名の利用(閲覧)があった。 4. <u>紀要の編集・発行業務を円滑に行う</u>

- 論文7編(原著2編、報告2編、資料2編、その他1編)の投稿があり全編採択とした。今年度(2021年度)の紀要には上記の論文7編に加え学長による巻頭言、学内共同研究抄録14編、学長裁量研究抄録3編、医療整備課との取組報告会抄録1編の掲載を予定している。また論文投稿時に際し従来は電子媒体に加え紙媒体の提出も求めていたが今年度分より紙媒体の提出を廃止した(以上、紀要編集部)。

評価結果の理由

学術・研究に関するイブニングセミナーの開催、学内共同研究の公正・公平かつ円滑な審査、科研費の獲得推進を目的とした諸取り組み、紀要の円滑な発行については目標を達成できたと考える。一方、科研費など外部資金および学内共同研究の申請率と科研費採択率は目標未達となった。また共同研究費の使い勝手向上に関する検討、将来構想委員会との連携による県の施策と関連する研究成果の報告事業については今年度は実現しなかった。

改善策

- 科研費など外部資金および学内共同研究の申請率と科研費採択率については来年度も数値目標を掲げ、目標達成にむけた対策を講ずる。すなわち科研費申請に関するFDや学内研究者による採択された科研費研究調書の参照整備を継続するとともに、一部の学科で試みられているように科研費の申請に経験のある教授陣による若手教員のサポート体制を全学的に展開することも検討したい。
- 学内共同研究費について、予め定めた費目間の融通(変更)が認められないことが柔軟な研究活動の妨げとなっているという指摘があり県との相談も含め検討したい。
- 将来構想委員会との連携による県の施策と関連する研究成果の報告事業を検討する。

申し送り事項

上記の改善策に挙げた3項目の検討

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要(理由)

FD開催、学内共同研究の審査、紀要の発行等、円滑に実施されており、目標は概ね達成している。

今後は、学内共同研究において将来構想委員会との連携による県の施策と関連する研究成果の報告事業の検討を進めていただきたい。

委員長：太和田 暁之

総括委員長：大川 由一
面接日：2022年2月14日

自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

学生委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生支援の方針（ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善 従来の支援に加え、特にコロナ感染症対策下における不応の防止や支援について明示し、新たな方策をたてる。また、課外活動についても新たな活動方法を検討する。 卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>学生支援計画を 11分野で作成しリーダーを中心に活動（評価指標：適切な実施の可否）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学習環境の点検。 ② 学生会：学長・学生懇談会の開催 感染対策下のサークル活動再開 イベント開催の支援 ③ いずみ祭：過去2年、開催されなかったいずみ祭開催を支援。 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：今年度の学生担当者を設定して管理継続 ⑤ 売店・自動販売機：長期間の入構不可により、利用者の減少は避けえない。状況把握 ⑥ 卒業式：卒業写真の手配。卒業式進行への補助（式歌 など） ⑦ 学生対象セミナー：昨年と同じテーマで2回開講。時期を早めての開催 ⑧ 同窓会：学科ごとに分割して初年度となる本年、学科別の同窓会長への支援、情報交換。 ⑨ 学生からの相談内容把握：学生相談アンケートの継続 ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：入構可能な時期は、整頓状況を確認。 ⑪ 後援会：理事会への出席。大学の状況報告、保護者との情報交換、後援会学生支援の支援
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>達成事項（下線はコロナ感染症対策下における新たな方策）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学生のロッカー室整備ならず。狭さを解決できなかった。 ② 学生会：<u>WEB も活用して</u>予定事業はすべて実施した。<u>サークル活動再開マニュアルを作成</u>。 ③ いずみ祭：令和3年度いずみ祭を、<u>WEB リアルタイムと動画配信の2部構成で実施</u>。 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：新担当者を決定して学生による管理を継続 ⑤ 売店・自動販売機：売店に関するアンケート実施。<u>生協撤退に対しての新商品ニーズを把握</u> ⑥ 卒業式：卒業写真撮影の手配および式歌清聴の準備 ⑦ 学生対象セミナー：参加者は減少するも2回開講。<u>学長によるコロナ対策特別講演を開講</u>。 ⑧ 同窓会：学科別同窓会の動向を把握。<u>代表者 WEB 会議を開催予定(3月)</u> ⑨ 学生からの相談内容把握：学生相談アンケートの実施 結果から課題を提示し教員で共有。 ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：<u>入構可能な時期は、整頓状況を確認</u>。 ⑪ 後援会：<u>WEB 総会および理事会開催を支援</u>。理事会議事を大学に報告。 <p>評価結果の理由と改善策</p> <p>WEB も活用した臨機応変な対応で、当初の予定に加えた、新たな事業も実施した。キャンパス整備に対する課題が継続された。学生の豊かな学生生活を築くことを目的とした、学生・事務局・後援会との情報と問題意識の共有と連携が求められる。</p> <p>申し送り事項</p> <p>生協撤退などの学習・生活環境の変化が、学生の福利厚生に及ぼす影響を、学生との意見交換や調査などで、客観的に把握する必要がある。同窓会の組織化を強固にする。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 概ね目標通りに遂行できている。一方で、キャンパス整備については課題が散見されるため、継続して検討していく必要あり。</p>

委員長：島田美恵子
総括委員長：大川由一 面接日：2022年2月15日
自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

進路支援委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

1 目標	<p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100% (全学科) をめざし、学科専攻と連携を図り大学全体として取り組んでいく。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響を把握し、4 年生への適切な情報提供を行うとともに、学生が活用しやすい進路支援方法を検討する。</p>
2 目標達成のための具体的な活動計画	<p>年度当初に、国家試験受験対策および就職進学 (県内就職促進) 支援の年間計画を学科ごとに作成し、委員会開催時にそれぞれの進捗状況を報告し、学科間で情報共有し、討議し、次の活動へのヒントとする。主に 3 年次生を対象としたキャリアセミナー年間 3 回、ジョブカフェを年間 2 回実施する。</p>
3 目標達成度 (自己評価)	<p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項	<p>達成事項</p> <p>① 年度当初に作成した進路支援計画は、全学および各学科・専攻ごとに、実施できた。</p> <p>② 全学でのキャリアセミナーは例年通り 3 回実施した (3 回目 3 月 18 日予定)。新型コロナウイルス感染防止のため、第 2 回まではオンデマンド方式で実施した。全学を対象としたセミナー参加者は、急遽オンデマンドに変更したためか、例年よりも少なかった (第 1 回視聴回数 72 回。第 2 回公務員対策視聴回数 50 回)。</p> <p>③ 各学科専攻によるセミナー (第 2 回 2 部) における学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。対面・オンデマンド両方の方法を工夫しながら、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施された。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。例年、閲覧数の多い、学生が記録を残す就職活動報告書は、いつでも閲覧できるように支援室設置の紙媒体から PDF 化してサーバー上でも閲覧が可能な状態を検討している。</p> <p>⑤ 昨年より実施している「ジョブカフェ」の参加人数が 10 名以内と少なかった (11 月。3 月実施予定)。学生の入構制限下において開催周知が滞り、参加者が限定されることは否めない。工夫が必要である。</p> <p>評価結果の理由と改善策</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大状況においても、全学および各学科・専攻で例年通りの進路支援事業が実施できた。また、今年度は「進路に関する報告」の提出率が高く、12 月時点で 72% の内定が確認されている。就職活動や内定状況は例年通りという途中経過である。</p> <p>申し送り事項</p> <p>引き続き、新型コロナ感染症対策を考慮した進路支援計画を作成し実施していく。全学セミナーは、主に 3 年次生を対象とした実践的な内容を企画しているが、1 年時・2 年時に特化したキャリアセミナーを企画してもいいのではないかな。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	<p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>キャリアセミナーやジョブカフェを開催し、就職進学支援や国家試験受験支援に取り組まれている。コロナ禍の対応による学生参加者数の減少や、低学年への進路支援などの課題は、次年度以降の検討が期待される。</p>
	委員長：島田 美恵子
	総括委員長：大川由一

面接日：2022年2月15日
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

研究倫理審査委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

1	<p>目標</p> <p>① Zoom や Teams によるリモート研究の指針や規定を整備する。</p> <p>② データの収集と管理に関する指針を再検討する。</p> <p>③ 倫理審査結果通知書における「非該当」の項目をわかりやすくする。</p> <p>④ 本年度6月30日施行「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の変更点の周知・対応。</p> <p>⑤ 研究倫理に関する外部講師によるFDをFD・SD委員会と連携して実施を目指す。</p>
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①～④については委員会において、あるいはTeams上で議論しまとめていく。</p> <p>⑤は適切な講師を派遣可能な団体を探す交渉する。</p>
3	<p>目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①Zoom や Teams などの Web 会議システムを使用する場合の指針を作成した。 ②データの収集と管理に関する指針を現状に合わせ改訂したものを作成した。 また外部クラウドの研究利用について本学で必要な手続きを再度告知する。 ③倫理審査結果通知書における「非該当」をはじめとする審査結果の文言の簡潔な説明を作成した。(資料4) ④新たに加わった「電磁的インフォームドコンセントの取得」について告知。 また「多機関共同研究」での倫理審査の手続き変更について告知文を作成。 ⑤国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の講師によるFD実施予定。(3月4日) ・ 評価結果の理由と改善策 <p>目標の5項目について、①～③については委員会内での議論により文案ができた(ただし議論はまだ締め切っていないので微調節はあります。)ので目標をほぼ達成できたと考えます。④については「電磁的インフォームドコンセントの取得」については告知済みで、「多機関共同研究」については告知文を作成していつでも告知できる状態にあります。⑤についても順調に準備が進んでいます。</p> ・ 申し送り事項 <p>研究のインターネット利用が進んでる中、従来の倫理規定で時代にそぐわなくなっているものがあるので、他大学の動向などを参考に来年度以降修正していくべきと考えます。</p>
5	<p>自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要(理由)</p> <p>Web 会議システムを使用する際の指針や、電磁的なインフォームドコンセントの取得方法など、コロナ禍で研究を行う上で必要なことについてご検討ありがとうございました。次年度に向けて修正が必要な事案についても検討されており、目標に達していると考えます。</p>
委員長：加瀬政彦	
総括委員長：大川由一 面接日：2022年2月7日	
自己点検・評価実施推進部会：北川良子	

国際交流委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

1 目標
<p>国外との国際交流活動の活性化を行う。 国内での国際交流活動の活性化を行う。 多文化交流を学習目標に含む授業科目の把握と今後の展開について検討を行う。</p>
2 目標達成のための具体的な活動計画
<p>1) 韓国 Inje 大学との交流について県の許可が出たので、先方の意向を打診し交流を進める。 2) 本学と神田外語大との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」含めた、国内での国際交流活動を委員会としてバックアップする。 3) 多文化(国外も含む)交流を学習目標に含む授業科目について、シラバス等により一覧を作成する。今後どのように展開できるか委員会にて検討を行う。</p>
3 目標達成度(自己評価)
<p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<p>・ 達成事項</p> <p>1) 2021 年 8 月に Inje 大学との協定締結をし、交流シンポジウムを 3 月 23 日(水) Zoom にて開催予定で、現在準備中である。 2) 「初期医療言語サービスボランティア研修」を開催するために、6 月 1 日、12 月 8 日に神田外語大学メンバー(羽鳥先生他 5 人)、本学メンバー(石川、神田、三枝、田口)で Zoom にてミーティングを開催した。2021 年度は新型コロナウイルス蔓延のため開催を見送り、2022 年度に開催する予定で使用するテキストや日程を協議中である。 3) 多文化交流を学習目標に含む授業科目を一覧にしたが、今後どのように展開できるかの検討は行われていない。</p> <p>・ 評価結果の理由と改善策</p> <p>Inje 大学との交流および初期医療言語サービスボランティア研修については、対面での開催が難しいなか、インターネット等を利用した活動がほぼできていると考えられる。ただし、交流シンポジウム開催後については、全く未定である。また、多文化交流を学習目標に含む授業科目について今後の展開についての検討を行われていないので、今後に向けての検討が必要である。</p> <p>・ 申し送り事項</p> <p>2022 年度以降、Inje 大学とどのように交流するか具体的な検討が必要である。 2022 年度「初期医療言語サービスボランティア研修」開催のため、今後も神田外語大学と協議予定である。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>インジェ大学との交流シンポジウムの開催、初期医療言語サービスボランティア研修実施の検討と国際交流の活性化の取組が進んでおり、目標に達している。</p>
委員長：石川裕子
総括委員長：大川由一
面接日：2022 年 2 月 9 日
自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介

図書委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナーなどのセミナー、ガイダンスを実施し、図書館の利用促進，学生の文献検索能力向上につとめる。 ・学生の学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナー開催 (年 2 回) ・図書館利用促進 ・コロナ禍での大学活動指針に準じ、警戒レベルに対する図書館利用の随時変更について ※それに伴い、図書委員会 (対面・Web) 開催 (年 3 回) を頻回にする。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索セミナーは対面・オンラインで 3 回実施した。11 月 4 日の 3 回目はオンデマンドであった。また、文献ガイダンスは各学科・専攻 3 学年へ PowerPoint を用いて実施した (5 回)。 2. 図書館利用状況は促進されている。学生・教職員共々、コロナ禍で自宅学習の機会を余儀なくされたこともあり、仁戸名図書館利用は前年度 2 倍の 2,866 人に増加した (幕張図書館前年度の 8 割に減少し、8,344 人)。貸出数は幕張図書館前年度並みの 2,926 冊、仁戸名図書館は前年度比 2 割増の 871 冊であった。 3. 警戒レベルの変更に伴って図書館利用の随時変更手続きを踏むため、図書委員会の開催を対面 1 回、Web の会議を合わせて 4 回実施した。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書委員会メンバーで会議出席が叶わないケースがあり、電子ジャーナル更新や変更などの審議が遅れるなどし、Web 会議を追加した。その内訳は、各学科・専攻および共通教育会議の図書委員に審議事項を持ち帰って協議するように依頼したが、学科によっては審議が滞ってしまい、再度審議の差し戻し (電子ジャーナルの更新) があり、審議が遅れた。 2. 改善策は、各図書委員が審議事項を早い段階で各学科・専攻および共通教育会議で審議して貰うように依頼をする。また、教授会報告時に審議内容の情報を発信するなど工夫する。 ・ 申し送り事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書委員会を運営して 2 期目の途中であり、不要と考える。一昨年に比べ、昨年は大学のコロナ感染対応ができていたこともあり、4 月～9 月にわたる第 4、5 波のまん延防止対策、緊急事態宣言の下で警戒レベルに応じた運用ができた。しかし、警戒レベルと図書館運用 (学生・教職員の利用方法) で大学執行部と図書委員会との間で若干の時間的ズレが生じた。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由)</p>

文献セミナー、ガイダンスが計画通り実施された。また、新型コロナウイルスの影響にも対応し、図書館利用状況が促進されたことから目標が達成したと評価する。

図書委員長：三和 真人

総括委員長名：大川 由一

面談日：2022年2月9日

自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

社会貢献委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動に関するFD/SDを開催し、教職員の意思統一を図るようにする。 ・感染症対策を考慮し、社会のニーズを踏まえた公開講座をZOOM等検討し実施する。 ・ソーシャルキャピタルを基盤にし、全学科協働によるUR団地でのほい大健康プログラムの実施と千葉県いすみ医療センターの施設と同プログラムを検討する。
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開学時から今年度まで本学が取り組んできた社会貢献活動についてまとめ、FDを実施し、約80名の方に参加していただけるようにする。 ・昨年度、コロナ禍で実施できなかった公開講座をZOOM等で実施するようにする。 ・UR団地でのほい大健康プログラムを3回実施予定。また、いすみ医療センターと同プログラムの検討を実施する。
3	<p>目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 開学時から今年度まで本学が取り組んできた社会貢献活動についてスライドにまとめ、「県立大学に基づく社会貢献の役割」というテーマでFDを開催することができた。チームスに58名と動画視聴6名の方に参加していただけて目標を概ね達成できた。 ② 公開講座は、9月末まで緊急事態宣言が発令されていたため、ZOOM ウェビナーのみで開催し、90名の方に参加していただけて、概ね目標を達成できた。 ③ UR団地でほい大健康プログラムを3回予定していたが、コロナ禍のため1回のみで開催で7名の方に参加していただけた。いすみ医療センターと同プログラムの検討は、ズーム会議で協議中。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ol style="list-style-type: none"> ① レベル1のFDを開催したことで、これまでに本学が取り組んできた社会活動について理解を深めていただけて良かった。今後は、他大学での社会貢献も参考に検討したい。 ② 公開講座をZOOM形式で実施した際、10～20代の方に参加していただけたことがわかった。今後は、年層に合わせてテーマや開催方法を設定するようにしたい。 ③ コロナ禍で、ほい大健康プログラムが1回の開催となったが、次年度は感染拡大の状況を鑑みながら、感染予防対策を万全にし、3回は実施できるようにしたい。 ・ 申し送り事項 <p>次年度のFDはレベル2を開催できるようにし、公開講座は、高齢者には対面、若年者にはZOOM形式で実施できるようにする。ほい大健康プログラムは、URといすみ市で3回ずつ実施できるように検討する。</p>
5	<p>自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 概ね目標通りに遂行できている。改善策にもあるように本学の特徴であるほい大プログラムの継続開催できる方略を検討する必要がある。</p>
委員長：細山田康恵	
総括委員長：大川由一 面接日：2022年2月7日	
自己点検・評価実施推進部会：酒井克也	

自己点検・評価委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標</p> <p>①自己点検・評価に関する方法や書式の再点検を行い、円滑な自己点検・評価の実施を行う</p> <p>②各部長と委員長の連携を図り、部会の所掌事項の進行を促進する</p> <p>③R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、R3年度の計画を推進する</p> <p>④IRコンソーシアムの活用など、IRの機能を促進する</p> <p>⑤大学組織の活動・成果・課題等について検証を行う</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開する。 委員会での所掌を点検し、必要時、関連書式や委員会規定を改訂する。</p> <p>②4名の部長での打ち合わせ会議を開催し、それぞれの所掌について確認する。また、各部会から年間スケジュールを提出してもらい、前期に第1回の部会の開催を求め、部会員への所掌の周知を図る。</p> <p>③R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、認証評価受審における体制を明確にした上で大学内でのR3年度の計画を推進する。</p> <p>④IRコンソーシアムの活用を検討する。卒業時調査や適宜実施される学生調査など、学内におけるIRの機能を果たす。</p> <p>⑤重点施策達成状況や委員会活動達成状況から大学組織の活動・成果・課題等について検証を行う。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・ 達成事項</p> <p>①令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開した。 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」の決定により、重点施策(中長期ビジョン)達成に向けた自己点検・評価は、将来構想検討委員会の所掌とし、自己点検・評価委員会では新たに委員会活動の自己点検・評価を所掌することになった。また、各部会の所掌を推進するために委員会規定を改訂した。</p> <p>②4名の部長での打ち合わせ会議を開催した。また、各部会から年間スケジュールを提出してもらい、前期に第1回の部会の開催を求め、部会員への所掌の周知を図ることができた。</p> <p>③R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、認証評価受審における体制を明確にした上で大学内でのR3年度の計画を推進し、スケジュール通りに準備が進行した。</p> <p>④IRコンソーシアムの活用を検討したが、年度内に分析データを公開するには至らなかった。IR部会により、卒業時調査および前期終了時に実施された学生調査において、調査の準備・実施・結果報告の役割を果たした。</p> <p>⑤委員会活動達成状況により大学組織について検証を行った。委員会活動達成状況では概ね3の評価であった。重点施策の目標達成については4月以降に検証予定。</p> <p>・ 評価結果の理由と改善策</p> <p>①～②の目標については計画通りに活動し、目標通りに達成できた。学内の円滑な自己点検・評価を推進するためには、引き続き、部会や関連委員会との所掌の確認や連携を検討していく必要がある。</p> <p>③についても、認証評価部会、大学運営会議等とも連携して計画通りに活動し、目標通りに達成できた。</p>

④については、IR コンソーシアムの活用により、年度内に分析データを公開するには至らなかった。IR 部会は関連委員会から選出された部会員で構成されているため、各委員会の分析などにIR コンソーシアムのデータが活用できないか、各委員会でも検討してもらう必要がある。

⑤については、委員会に関して大学組織・所掌について問題はないと検証できた。重点施策の目標達成については4月以降に検証予定。

・ 申し送り事項

R3年度に大学運営会議において、「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」および「千葉県立保健医療大学内部質保証システム体系図」が決定された。その方針に則り、学内の円滑な自己点検・評価を推進するために、引き続き、部会や関連委員会との連携を検討していく必要がある。

R4年度の大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査等に対応してR5年3月に評価結果を得る予定である。

IR部会において、教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することを目指し、学内外で収集・蓄積する情報とその収集方法・蓄積方法に関する検討を開始する。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」の学内公開やR4年度の大学機関別認証評価受審に向けた体制の整備など計画通り進められている。IR コンソーシアムのデータ活用方法については今後検討されていくことが期待される。

委員長： 西野郁子

総括委員長：石井邦子

面接日：2022年2月15日

自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

将来構想検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

<p>1 目標</p> <p>①千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる</p> <p>②シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する</p> <p>③大学院・法人化・キャンパス統合の実現に向けて検討する</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画（丸数字は目標と対応）</p> <p>①重点施策の目標・推進・評価を行っていくための体制を整備するとともに、自己点検・評価委員会との所掌事項を整理する。5月中に重点施策の担当（責任）部門等に今年度の目標と評価指標の設定を依頼。6月中に本委員会で各重点施策の主・副担当を決め点検。2月に同様の手順で評価を実施。</p> <p>②本学のシンクタンク機能の発揮の仕方を検討し、本学の取組を可視化できるリーフレットを作成し、今年度中に関係機関に配布する。また、年に1回県への報告会を実施する。</p> <p>③学内においてこれまでの経緯を共有し方向性および戦略を検討する。並行して、県との協議の場を設定する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項（丸数字は目標と対応） <p>①重点施策の内容を整理し一覧で管理できるフォーマットを作成し、5月に重点施策の担当（責任）部門等に今年度の目標と評価指標の設定を依頼。6月に本委員会で各重点施策の主・副担当を決め点検。2月に同様の手順で評価を実施。</p> <p>②広報委員と社会貢献委員を加えたプロジェクトチームを立ち上げ、全国の公立大学の社会貢献やシンクタンク機能に関わる情報を収集し分析した。分析結果は論文化し紀要に掲載（「看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴」令和4年3月発行）。また、学長メッセージ、大学の概要、教育・研究・社会貢献の取組、施設利用案内からなるリーフレットを作成し、5200カ所の関係機関に配布（令和4年3月）。</p> <p>県への報告会は、11月8日に開催。健康福祉部からは19名、本学からは10名が参加。本学の取組を紹介し、歯科衛生士に対する今後の研修の方向性や地域や学校からの作業療法士に対するニーズ、看護研究の推進と看護の質との関係などについての意見交換が行われた。</p> <p>③当面大学執行部（学長・副学長・学部長・局長）と医療整備課間で「あり方勉強会」を開催し、本学の方向性を検討していくこととなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>①および②の目標については、計画どおりに活動することができた。③については、現在執行部マターとなっていることから、今後の県との協議の進展状況を見ていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送り事項 <p>①評価結果を踏まえ、次年度も引き続き重点施策が確実に推進できるよう本委員会の点検体制を整備していく必要がある。</p> <p>②次年度は、リーフレットの効果について配布先の反応などから効果を検証する。また、県への報告会は、本学の理解・関心を高めるとともに、今後の方向性を見出す機会にもなることから、今後も継続する。</p> <p>③執行部と医療整備課との協議の進捗状況をみながら、本学の在り方を実現するための方策等を検討するための関係者や住民との対話の機会を検討していく。</p>

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

①重点施策の一括管理に向けフォーマットを作成し点検評価まで実施できたことと、②大学が行う社会貢献やシンクタンク機能に関わる情報収集・分析を行い紀要に掲載したこと、③県や大学執行部にて意見交換や勉強会を開催し今後の方向性について検討できていること、また次年度にむけた検討も進められており、目標を達することはできている

委員長：佐藤紀子

総括委員長：石井邦子

面接日：2022年2月22日

自己点検・評価実施推進部会：北川良子

総務・企画委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

<p>1 目標</p> <p>①優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子、AV 機器等）の整備</p> <p>②令和4年度に向けた予算要求</p> <p>③教員アンケート調査および学生の卒業時調査結果にもとづく整備計画行程表の作成（整備の優先順位づけと整備目標年度の作成）</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和3年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。</p> <p>②令和4年度の予算要求は各学科専攻に対して行った意向調査に基づき行う他、優先度の高いエアコンやネットワーク環境等、高額又は大規模整備については別途予算要求を行う。</p> <p>③学習環境改善に必須である机・椅子、カーテン、プロジェクターは幕張・仁戸名の全教室を対象に、長期的な整備計画を作成し、計画的に整備する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①令和3年度の全学整備備品について、進捗状況を事務局から逐次委員会へ報告し、予定どおり整備することができた。また、学内共同研究及び学長裁量研究の需用費の残額を予備費とすることで、学内の諸問題について柔軟に対応した。 ②各学科専攻に対して意向調査を行い、当該調査に基づき令和4年度教育用備品（約1,670万）及び全学整備備品（約505万円）の予算要求を行うことができた。また、高額が想定されるB201のエアコン及びネットワーク環境については、企画運営課予算総括担当者とは協力し、別途予算要求することができた。 ③昨年度より作成されている机・椅子、プロジェクターの長期整備計画に、カーテンを加え、より計画的に学習環境の整備を行えるようにした。 ④その他 機関別評価受審に向けた規定類の整備 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>活動計画に基づき学内環境の整備、予算要求等を目標通り行うことができた。</p> <p>ただ、学内のエアコンも古いものも多く、毎年故障が起きているため、机・椅子等と同様に学内の状況を把握するとともに、長期的な整備計画を作成する必要がある。</p> ・ 申し送り事項 <p>学内エアコンに係る長期整備計画の策定。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>学内環境の整備、調査に基づいた予算請求など、目標どおり実施された。</p> <p>次年度以降、学内エアコン等の長期的な整備計画を進めていただきたい。</p>
<p>委員長：山本 達也</p>
<p>総括委員長：石井 邦子</p> <p>面接日：2022年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子</p>

広報委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1 目標	<p>広報に関する課題解決のための方策を実行するとともに研究成果を広報する方策を策定し、実行する。</p>
2 目標達成のための具体的な活動計画	<p>ビジョン1. アドミッションポリシーに見合った受験生の獲得につながる広報活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-1. 完成度の高い大学案内の作成：資料請求数（前年比） 1-2. 効果的なオープンキャンパスの実施：来場者数（前年比）・来場者アンケート 1-3. 効果的な大学説明会・キャンパス見学の実施：実施数、資料請求数（前年比） 1-4. 広報活動の評価方法の検討：新入生へのアンケート 1-5. 新たな広報活動の企画立案：予算の検討と企画の立案 <p>ビジョン2. 産学連携活動につながる研究力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-1. HPの改訂（研究活動ページとresearchmapの連結・SNSと連動したブログページ等）：HP改訂状況 2-2. HPやSNSによる研究成果の広報：閲覧数 <p>ビジョン3. 広報活動の基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-1. 広報に関する情報発信の規定の整備：規定整備状況 3-2. 大学説明会Q&Aの更新：更新状況
3 目標達成度（自己評価）	<p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項	<p>・ 達成事項</p> <p>ビジョン1. アドミッションポリシーに見合った受験生の獲得につながる広報活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学案内は、業者選定時の発注書の詳細な指定により、デザインの委託とプロによる写真撮影ができた。また作成手順の明確化により、完成度の高い大学案内を発行することができた。 ・ オープンキャンパスは、対面開催とWEB開催の両面から検討したが、感染状況が収束せずWEB開催となった。新規に動画を3本（学長・幕張キャンパス紹介・仁戸名キャンパス紹介）作成した。動画視聴回数を近隣の公立大学の類似動画と比較すると、学長挨拶動画は、本学752回、埼玉県立292回、神奈川県立245回であった。学科紹介等の動画の視聴回数は、本学は幕張紹介が2317回、仁戸名紹介が1128回であり、埼玉県立は2969回、茨城県立507回、神奈川県立は80～400回であり、多くの視聴回数を得た。視聴者のうち80名がアンケートに回答しており、前年度よりアンケート回答者が10名多い結果となった。 ・ 策定したCOVID-19対応の広報活動の方針に則り、大学説明会を学校説明会38回、模擬授業24回、学外説明会8件実施した。 ・ 新入生へのアンケートは実施できたが、分析と広報活動の評価方法の検討は未着手である。 ・ 新たな広報活動の企画について検討したが、県内受験生の獲得につながる見込みが少ないことから予算化には至らなかった。 <p>ビジョン2. 産学連携活動につながる研究力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HP上での研究力の発信について検討し、本学HPの教員名簿から研究業績ページのresearchmapにリンクをはった。 ・ 歯科衛生学科教員が優秀論文賞を受賞したニュースを含め、学内イベントをSNSで情報発信した（11回）。

<p>ビジョン3. 広報活動の基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS における情報発信のための運営要領とポリシーの策定を行った。 ・ 大学説明会 Q&A の情報更新および大学説明会のスライドを更新した。 <p>・ 評価結果の理由と改善策</p> <p>大学案内（パンフレット）や WEB オープンキャンパス、高校訪問等は目標以上の成果であったが、資料の請求数が減少している（案内系資料 1217 件、前年比 86%）ため、ビジョン 1 の達成度は十分ではない。新入生アンケート結果の分析をふまえ、県内受験生獲得につながるよう入試広報の戦略の明確化が必要。ビジョン 2 と 3 の目標は達成できた。今後は、産学連携活動へとつなげるための具体的方法を検討する必要がある。</p> <p>・ 申し送り事項</p> <p>オープンキャンパスを含む対面型および遠隔型の入試広報活動の検討と実施、研究成果の広報につながる HP の改修や広報媒体の作成など新たな広報活動の計画立案と予算化、他委員会等との連携などの検討が必要である。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）目標通りに遂行できている。HP の改修については現在在籍していない教員情報が掲載されているなどの更新遅れが散見されるため、今後改善が望まれる。</p>
<p style="text-align: right;">委員長：小宮浩美</p>
<p style="text-align: right;">総括委員長：石井邦子 面接日：2022 年 2 月 18 日</p>
<p style="text-align: right;">自己点検・評価実施推進部会：酒井克也</p>

衛生委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1 目標
1) 職員の危険及び健康障害を防止するための基本対策を策定し実施する 2) 職員の健康の保持増進を図るための基本対策を策定し実施する 3) 公務災害の原因及び再発防止策で衛生に関する対策を実施する
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) 産業医および幕張・仁戸名キャンパスでの安全管理者の設置 2) 産業医・安全管理者による定期的な構内巡視とそれに基づく改善。 3) 学生・教職員に対する新型コロナ対策の策定と実施 4) 職場の心のケアの増進（ストレスチェックとフィードバック）
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ●新たな産業医として宗雪先生を迎え、定期的な巡視の実施 ●幕張キャンパスでは荒川先生（歯科衛生）、仁戸名キャンパスには山本先生（作業療法）を安全管理者として選任し、安全管理と巡視を実施。 ●衛生委員会にて、構内の労働衛生上の問題の把握と改善の討議。 ●新型コロナ感染対策として、COVID 対策会議とともにマニュアルおよび DX による報告制度を確立し、機動的な感染対策を実施。 ●学生委員会とともに学生・教職員への新型コロナ感染症対策としての情報提供、オンデマンドでの講演会の実施。 ●ストレスチェック実施と高い受診率 ・ 評価結果の理由と改善策 労働衛生環境は比較的保たれており、近々の課題である新型コロナ感染対策も有効に行われている。 ・ 申し送り事項 新型コロナウイルスとの共生を視野に引き続き、安心安全な職場環境の保持と、職員の健康増進をはかる。
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要
(理由) 安全管理者の選任、定期的な構内巡視の実施など、労働衛生上の問題把握・改善の対策が進められている。COVID 対策会議における運営管理や学生委員会と連携した情報提供など、新型コロナ感染対策は有効に行われている。
委員長：龍野 一郎
総括委員長：石井 邦子 面接日：2022年2月17日
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

危機管理委員会 活動達成状況点検・評価表 (2021 年度)

<p>1 目標 本学の危機管理マニュアル作成を要する項目をリストアップする。 危機管理を網羅するマニュアルを作成する。 不審者対応マニュアルを作成する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画 不審者対応マニュアル作成：委員会案を基に 2021 年 11 月 FD を行い、意見を集約後にマニュアルを完成する。 危機管理を網羅するマニュアルを作成する。(2022 年 2 月) 本学の危機管理マニュアル作成を要する項目をリストアップする。(2022 年 3 月)</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価) <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 不審者対応マニュアル作成：令和 3 年 11 月 29 日大学運営会議にて承認された。 不審者対応マニュアル案を大学として承認される手続きを考慮して、委員会について教職員に意見を求め、意見を集約して修正した案を大学運営会議に提案して承認後、マニュアルの紹介並びに不審者対応の実際について FD を行うことに計画を変更した。 令和 4 年 2 月 21 日 FD 開催した。Teams による遠隔で開催し、参加者は 69 名であった。 本学の危機管理マニュアル作成を要する項目について、災害対応初動マニュアルの改編を要するか確認し、マニュアルの作成順序を検討することになった。 危機管理を網羅するマニュアルについて検討目的で、危機管理の手引きを作成し、危機の分類から危機管理委員会が担当する項目を整理した。危機管理マニュアルの作成を要する事項や、危機管理マニュアル作成の手順を整理した。 ・ 評価結果の理由と改善策 不審者対応マニュアルを作成し、その作成過程をふまえて次のマニュアル作成の計画を立てるように計画を立てている。不審者対応マニュアルについて、大学運営会議の承認を得て、教職員に周知しているところである。 令和 2 年 2 月 21 日に不審者対応に関する FD/SD を開催して、教職員に本学の不審者対応について具体的に周知した。当初の予定を変更したが、確実な周知ができたと考えられる。 危機管理を網羅するマニュアル作成について、作成した危機管理の手引きから危機の分類を整理できたが、作成の優先順位を検討中で、引き続き進める必要がある。 ・ 申し送り事項 「危機管理の手引き」について、「危機」や「危機管理」、「危機の分類」等の定義、危機管理に係る「規程」、「マニュアル」等の位置づけを明確にしたうえで、危機管理について大学全体で共有する。 個別のマニュアルを作成する項目を明確にして、優先度の高い項目からマニュアルを作成する。 危機管理の個別マニュアルや報告様式の保存・共有方法を検討し、必要時に容易にアクセスできるようにする。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要(理由) 昨今の教育現場の安全対策のために求められている不審者対応マニュアルを作成し、Teams による FD で教職員の多くが参加し共有できた。以上の理由より目標を達していると考えます。</p>

委員長：酒巻 裕之
総括委員長：石井邦子 面接日：2022年2月24日
自己点検・評価実施推進部会：北川良子

人事委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1 目標
1) 教員組織の検証の実施と評価を行う。 2) 現状の評価制度の検証結果を踏まえて実績と能力を適正に評価し、動機づけできる人事評価制度を策定する。
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) 文科省の届け出と同時期に毎年5月時点での教員組織の検証を本年度より実施する。 2) 前年度の検証結果を踏まえて、委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価の方法を具体化する。
3 目標達成度（自己評価） □5 大変満足のいく成果 □4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 □2 やや不満足の結果 □1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
・ 達成事項 1) 令和3年5月時点の「教員組織の検証」を実施し、評価を行った。 ① 初回であったため基準・調査方法等を確認の上、「教員組織の定期的検証」のフォーマットを作成して、各検証項目について基準に達しているかを明示化した。 ② 検証の結果、概ね基準を満たしていると評価された。ただし、教員の欠員等の影響で一部の学科専攻が他の学科専攻と比べて十分な達成度とまらない項目があることも判明した。 ③ 基準に達していても、十分な達成度とまらない項目についての対応は今後に残している。執行部、事務局（県庁）、大学運営会議と連携し、指示のもと人事委員会として進める。 2) 委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価の方法を具体化する。 ① 本学における教員人事評価の際の提出書類となる「教員業績評価票」のうち、「(3)大学の管理運営」に学内委員会活動、「(4)社会貢献」にシンクタンク機能に関する活動が含まれることを確認した。さらに、もう一つの提出書類の「教員能力評価」にも反映することとした。 ② 教員人事評価の一次評価者である各学科・専攻長に、各教員の学内委員会活動及びシンクタンク機能に関する活動を教員業績評価票に記載することを周知して情報共有した。
・ 評価結果の理由と改善策 1) 目標通り、教員組織の検証を実施し、基準達成していることと改善の余地のある項目を明らかにできた。 2) 委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価の方法を具体化できた。
・ 申し送り事項 (A) 「教員組織の定期的検証」を毎年5月に行うこと。 (B) 「教員組織の定期的検証」のうち5年毎に行う各教員の授業負担調査を新々カリキュラムの完成年度となる令和4年度に実施する。 (C) 基準を十分満たすように、教員の人事組織編成の検討を行う。
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 □5 特に優れている □4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している □2 やや問題あり改善余地あり □1 問題あり改善必要 (理由) 「教員組織の検証」を実施し評価している。また、委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価についても「教員業績評価票」、「教員能力評価」を活用して具体化されて実施している。 次年度以降、教員組織の検証の結果を踏まえ基準を十分満たすような対応が期待される。
委員長：神田 みなみ
総括委員長：石井 邦子
面接日：2022年2月17日
自己点検・評価実施推進部会：鈴鹿祐子

教員再任審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1 目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教員再任審査において、再任審査方法に準じて適正に審査する。 ・審査対象者の不十分な記載への対応として、「審査項目および審査基準等」の修正（審査基準の明確化や例示）を検討する。
2 目標達成のための具体的な活動計画
<ul style="list-style-type: none"> ・審査方法に従い審査を滞りなく実施する。 ・審査時に審査項目および審査基準等で判断に迷う点や追加訂正等の必要な箇所をとりまとめ、基準の解釈、明確化、改訂を検討する。 ・申請時提出書類の記載例の作成を進める。
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 教員再任審査対象者（前期7名、後期3名）の審査を適正に実施した。 前期1名が学長による形成的評価を受けた。 「審査項目および審査基準等」の修正に向けて、記載方法や審査項目の解釈について意見交換を行った。また修正案に柔軟に対応できるよう「千葉県立保健医療大学における任期を定めて採用された教員の再任用に関する規程」を改正した。 ・ 評価結果の理由と改善策 委員による再任審査は、審査項目について点数化基準により実施した。審査のばらつきは委員会で審議して修正を行い、適正な審査が実施できた。 審査時に判断に迷う基準、項目の確認等に対する意見集約を行い、審査項目および審査基準等の修正へ向けて検討中である。 教育・研究活動等報告書への記載例の作成を進めている。 ・ 申し送り事項 再任審査の申請手続きにおける書類の記載例等の整備、審査における点数化基準の明確化をはかり、適正な審査を実施していく。
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 （理由）目標通りに遂行できている。引き続き、点数化基準の明確化が望まれる。
委員長：平岡真実
総括委員長：石井邦子 面接日：2022年2月15日
自己点検・評価実施推進部会：酒井克也

キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 活動達成状況点検・評価表（2021年度）

1 目標	学生及び教職員に一般知識・教養としてハラスメントを周知するとともに、大学内で発生したハラスメントの実態を把握する。
2 目標達成のための具体的な活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの見直し 2) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会と相談員のミーティングの実施 3) 相談者からキャンパス・ハラスメント相談員への相談実施の実態を把握 4) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査並びに外部委員による相談員研修会の実施
3 目標達成度（自己評価）	<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 5月31日にキャンパス・ハラスメント防止対策委員会と相談員の合同ミーティングを実施した。相談員の学内掲示板やWeb上への掲示内容、相談者から相談員への連絡方法などを変更する要望を受け、それらの内容を改善した。 2) 相談者から相談員が受けた相談件数が現状では把握できていないこと、相談を受けた相談員とキャンパス・ハラスメント防止対策委員が連携を取れていない指摘を受け、相談の概略を委員会が把握できるように規定を整備した。 3) 前任者より引継いだ相談員マニュアルの見直しに、今年度は着手できなかった。 4) 動画配信による学内ハラスメント研修会とアンケート調査を実施した。外部委員の臨床心理士に相談員研修会実施の内諾を得たが、開催にあたり予算措置等が取れなかった。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス禍で対面での委員会の開催に制限があったが、次年度はTeamsを活用したりリモート開催やメール審議を活用し、相談員マニュアルの内容を精査して見直しを行なう。 2) 相談員教育用動画を活用するなど、技能向上をはかる手法を検討する。 3) 委員より新たに専門委員からなる部会の設置提案があり、次年度に検討することにした。 4) 通常開催の委員会に外部委員に出席を依頼し、アンケート回答や相談員マニュアルの検討に弁護士と臨床心理士の意見を反映し、それらの内容改善をはかりたい。 ・ 申し送り事項 <p>委員会の活動を活性化し、部会の設置などの目標を明確にすることが望まれる。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input type="checkbox"/> 3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 (理由) 委員会と相談員が合同ミーティングを行い、連絡方法等を改善したことは評価される点である。一方で、活動計画にある相談員マニュアルの見直しや研修会の開催、外部委員による相談員研修会の実施については次年度以降に達成されることが期待される。
	委員長：菊池裕
	総括委員長：石井邦子 面接日：2022年2月18日
	自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉